

子どもホスピス 広めたい



2016年にオープン
した「TSURUMI
こどもホスピス」
=大阪市鶴見区

いのサニティは、横浜市内で2020年度に子どもホスピスを開設すべく準備を進めているNPO法人「横浜こどもホスピスプロジェクト」（田川尚登代表理事）が主催

小児がんなどの重い病気で余命を宣告されたり、重度の障害で生活に不自由が生じたりしている子らを支える「子どもホスピス」。全国でもまだ少ないこの施設の関係者が集い、課題などを話し合う初の「サミット」が2月、横浜市で開かれる。主催者は「子どもホスピスを広く知りたい機会にしたい」と話す。

ある。

重い病気や障害がある子どもたちがのびのび過ごし、

初の「サミット」横浜で来月

重い病気や障害がある子どもたちがのびのび過ごし、遊びや学びを通じて成長できる環境は医療機関や地域では限られているという。子どもホスピスはそんな子らに寄り添い、医療サービスだけではなく教育、遊びなど様々な体験を提供する「第一の我が家」ともいえる施設だ。

国内の子どもホスピスはほかに、医療型ホスピスとして「淀川キリスト教病院こどもホスピス」（大阪市）と、国立成育医療研究センター（東京都世田谷区）内の「もみじの家」がある。札幌、福岡両

市でも開設に向かたプロジェクト
クトが進行中だ。

田川さんは「ホスピス開設の動きが、今全国で広がってきている」とカミツトによる理解の広がりに期待する。医療関係者にもホスピスの存在を知つてもらい、重い病気の子や重度障害のある子がいる家族への紹介につなげてほしいと願う。田川さんは開設に向けて動いてくる子どもホスピスは、負担を減らすために利用者から料金はほとんど徴取せず、個人や贊助企業などからの寄付で運営が賄われる見込み。

カミツトは2月11日午後2時から、横浜市中区のかながわ労働プラザ。資料代千円。「小児緩和ケアと子どもの命」をテーマに県立こども医療センター新生児科の豊島勝昭医師の講演があるほか、国内3か所の子どもホスピスからの報告、開設を進める関係者からの進捗報告を踏まえ、課題を議論する。

参加申し込みや寄付などの問い合わせは、横浜こどもホスピスプロジェクト（電話0100・2626000・0100-2626000）かメール（contact@childrenshospice.yokohama）。